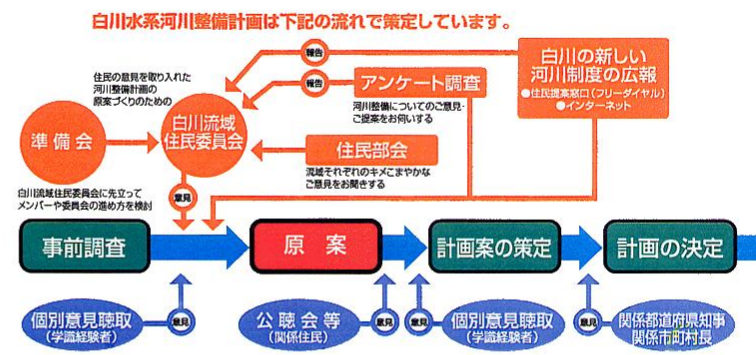
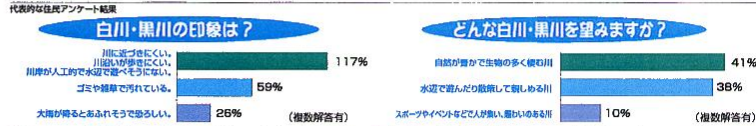


安全で親しみやすい白川づくりを行います。

住民参加、皆さんのご意見を反映して川づくりを進めています。
 いままでは、水害から私たちの暮らしを守ることを重視して改修を進めてきました。これからは住民のみならずの「こんな川がいいな」「こんな施設が欲しいな」といった声も積極的に聞き、住民のみならず一緒に安全で親しめる川づくりを目指しています。



自らの手で白川をつくろう!! 住民の皆さんの貴重なご意見。 あなたの「声」を大切にいただいても身近に親しめる、安全で環境に配慮した新しい白川づくりを進めています。



代表的な意見

◆治水対策
 ● 上流から下流までのバランスを考慮した対策が必要。
 ● 対策には限界があることの認識が必要。
 ● 地下空間の利用、人口・資産・中核機関が集積。

◆河川環境整備
 ● 水辺に近づきやすく、親しみやすく欲しい。
 ● 自然に触れ、自然を学べる場として整備して欲しい。
 ● 樹木を残して欲しい。
 ● 流域に分布する樹木と白川田の樹木の回復づくり。

◆熊本市街部の樹木保全
 ● 熊本市街部の樹木群は、その空間が「静い」場で、「音の静かなる」を代表する景観を演出していることから、緑田公園付近の樹木の保全を強く求める要望がある。

◆水循環
 ● 河川水と地下水を合わせた水循環が白川流域の特長。
 ● 地下水の低下および水質の低下が懸念されている。

整備の考え方

◆流域連携
 ● 流域住民委員会の継続的開設と流域連携の支援

◆情報(川の365日)
 ● 情報を提供することで啓発活動をして欲しい。
 ● 川に関する情報を提供して欲しい。
 ● 川との関わり方を教えて。
 ● テレビやパンフレット、インターネットで情報提供を!
 ● 携帯電話(モードなど)からも情報入手可能な時代。
 ● オアシス(熊本市の一般向け窓口)に詳しい人を配置して!
 ● ホームページを充実して欲しい。
 ● わくわくランドに教科学習や環境教育の情報発信を期待

◆危機管理と情報
 ● 早く、正確に知りた。リアルタイムに。
 ● 洪水時の児童の安全確保のために早く正確な情報を!
 ● 避難してくる地域住民へ、情報提供をして欲しい。
 ● 避難経路・避難場所を知りたい。
 ● 何処が危険なのか。過去どのような水害があったのか。
 ● 大雨と洪水に関する情報。

整備の考え方

◆地域住民との協働の維持管理
 ● 地域一体で行う維持管理を支援する

◆流域住民委員会
 ● 住民自らが維持管理に参加することを目標とする。
 ● 「川をきちんと整備するのも住民ですよ」という精神規定のようなものを盛り込む。

◆治水対策
 ● ITによる情報発信を行う

◆危機管理体制の確立を行う

◆インフォの整備を行う

◆危機管理体制の確立を行う

◆情報システムの整備と共有化を進める

白川はジョウロ型、阿蘇カルデラが集めた雨を一手に引き受け熊本市街地へと流れる河川です。

●白川づくりの3つのポイント
 「流域の約80%を占める阿蘇カルデラは、日本有数の多雨地帯でもあり、しかも中流域は急勾配のため、大雨の時は一気に熊本市街地へ流れます。貴重な歴史遺産を数多く残し、市民の貴重な緑地としても愛されている白川は、洪水の危険性も極めて高く、抜本的な河川改修が必要な河川でもあるのです。より親しまれ、愛される白川づくりと同時に、安全な川づくりを目指して、みなさんの「声」を聞きながら、川づくりの3つのポイントを目標に進めていきます。」

1. 上流から河口まで流域が一本でつながる川づくり
 白川はその地形的・自然的特性を考慮し、流域全体でバランスよく段階的に治水対策を進める必要があります。環境についても、自然の営みを守り、動植物の生息・生育環境を保全する整備や自然の景観豊かな河川整備を目指すには、ある部分だけを考慮して個別に計画するのではなく、流域全体として目指すべき方向を定めた上で、それぞれの部分をどのように整備・保全することが計画する必要があります。このように、白川は上流から河口まで、流域が一本でつながる川づくりを目指します。

2. 多様な動植物が生息・生育する川づくり
 白川は上流から河口まで多様な動植物が生息・生育しています。白川は、火山性流域の影響からヨナの湧出等により、少なからず動植物の生息・生育環境に影響を与えています。これらを抜本的に改善することは出来ませんが、ヨナの影響を受けやすい特異な自然環境を享受しつつも可能な限り生息・生育環境の改善に努め、「多様な動植物が生息・生育する川づくり」を目指します。

3. 安全で親しめる川づくり
 白川流域では昭和28年6月26日(1953.6.26)の洪水をはじめとして、近年も洪水被害や高潮被害が発生しており、洪水や高潮に対して安全な川づくりを進めていくことが切望されています。また同時に様々な生物が棲み、こどもたちが水辺でたわむれ、人々の心を癒してくれる空間になることが期待されています。こうした多様な社会的要望に応えるため、洪水や高潮に対する安全性を早急に確保しつつ、こどもたちが川に親しめる水辺空間、地域住民と川とのふれあいの空間となるように、「安全で親しめる川づくり」を目指します。

上流域
 中流域
 下流域

内谷遊水地
 阿蘇神社
 数珠沢ヶ滝
 阿蘇五岳
 長尾大橋
 粘滞りの滝
 石橋(二本木地区)

白川

有明海

白川と有明海

流産堰
 昭和55年8月2本木付近洪水
 樹木市
 平成2年7月2日白川橋下流付近洪水

白川橋夜景

白川水辺

※流域とは……降った雨がその川に流れ込む地域です。